

【全体概要】

奄美大島では、亜熱帯海洋性の気候を生かし、マンゴー、パッションフルーツなどの熱帯果樹の施設栽培を中心に取り組んでいる。一方、露地で栽培可能な熱帯果樹には、バナナなどがあるが、販売単価の変動が大きく、生産者の所得も安定していない。そうした中、奄美大島では、アボカドに着目し、生産者を中心とした研究会が発足し、様々な品種を試験的に植栽している。そこで、今回、本事業に取り組み、実需者との連携強化を図り、アボカドを新たな熱帯果樹の有望品目として位置づけ、産地化を図る計画である。

新品種・新技術等の概要

- 品種名：「グアテマラ系」、「西インド諸島系」、「メキシコ系」
- 開発者：不明
- 開発年：不明
- 普及状況：植栽面積20a程度。亜熱帯気候を生かした、西南暖地に適した系統を導入。「グアテマラ系」、「西インド諸島系」は、耐塩性に優れ、奄美地域で露地栽培が可能と考えられる系統。「メキシコ系」は奄美地域の温暖な気象条件における果実肥大・品質等を調査し、適応性を検討

主な取組内容

- 品種・技術の特性把握
実証試験を4品種 計8 a 10本で実施
着花性、着果性、果実肥大、収穫適期を把握するため、生育調査や成熟調査を実施
果実の果肉と種子の成分分析を実施

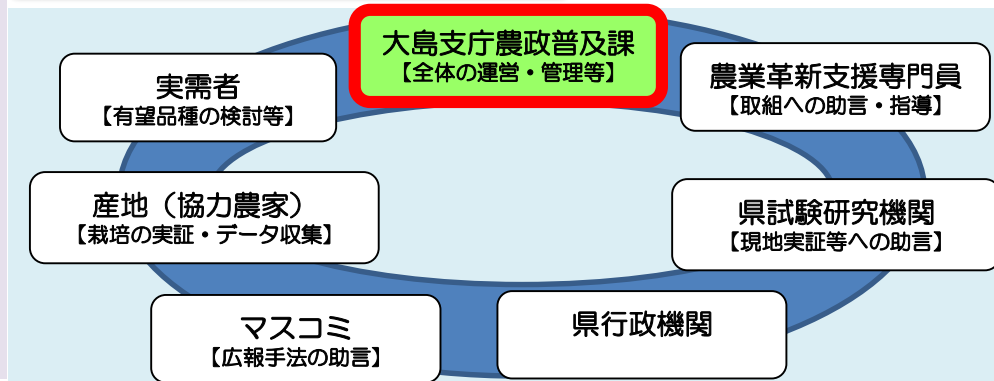


- 栽培・技術マニュアルの作成
栽培特性等の情報を産地と実需者に提供

- 産地・実需者の発掘調査
県内類似産地（徳之島、喜界島）との交流会

- 品種・技術と産地・実需者とのマッチング活動
産地・実需者にそれぞれの情報を提供
産地・実需者等との意見交換会や交流会及び品種に関する検討会等を開催

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

事業実施2年目の平成27年度は引き続き、産地・実需者や試験研究機関等の関係機関と連携し、品種・技術の特性を把握するとともに、加工品の開発や創作料理の検討など、コンソーシアムの形成に向けた取組を実施する計画である。